

▼今回のランナー

富樫義博

とがしよひろ●山形県新庄市出身。教育学部美術学科(現・地域教育文化学部)在学中に漫画賞受賞を経て漫画家デビュー。代表作「幽☆遊☆白書」「HUNTER×HUNTER」「レベルE」はアニメ化されている。



専心の成果

生来、絵を描くことが大好きな少年だった富樫義博さんは、小学校低学年の頃からコマを割って漫画形式で絵を描いていたという。当時は、自分より絵の上手なクラスメートに触発されて家でも学校でもよく絵を描いていた。そんな富樫さんは、学校という環境が好きで大人になっても学校に居続けたかったため、「学校の先生、それも絵が好きだから美術の先生になるしかない」というシンプルな発想で、美術教師を目指して教育学部美術学科(現・地域教育文化学部/造形芸術コース)に進学した。当初は、富樫さん自身もご両親も、中学校の美術教師という将来像を描いて平穏な大学生活を過ごしていた。

しかし、その後の教育実習で教師という職業の大変さと難しさを痛感することとなり、教師の道を断念し、漫画家になることを決意。一般的には、教師よりも漫画家の方がハードルが高く、険しい道のりだと思えるが、富樫さんには予めその道筋が見えていたようだ。穏やかな大学生活の中、漫画を描く時間はたっぷりあった。美術学科の学生は、自然と美術研究会サークルに所属する流れになっていたため、授業の延長上で油絵の制作や発表などを行っていたが、サークル活動のない日は、授業が終わるとすぐにアパートに帰り、ひたすら漫画の創作に没頭した。やがて「週刊少年ジャンプ」の漫画賞に応募するようになり、佳作、準入選と立て続けに賞を受賞し、着々と夢を引き寄せていった。サークルでは自分と同じように漫画雑誌で賞を受賞した友人とも知り合い、酒を飲んでファミコンの話など他愛もない会話で盛り上がるのが楽しかったと振り返る。ほどなく、「週刊少年ジャンプ」の有望株として担当の編集者がつくまでになった富樫さんは、在学中に読み切りもので漫画家



アトリエで漫画のペン入れ作業に集中する富樫先生。ここから多くの人々を魅了する作品が生み出されている。

Yamadai SEIKA Relay



山大聖火リレー



少年時代に読んで衝撃を受けた漫画「漂流教室」と自身の代表作「HUNTER×HUNTER」を手に笑顔の富樫先生。

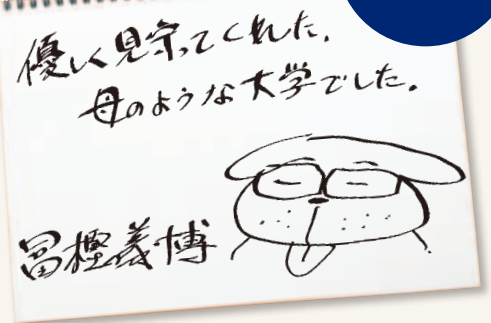
山形で過ごした穏やかな日々を糧として、 厳しい漫画の世界で第一線を走り続ける。

富樫義博 漫画家

デビュー。さらに、担当編集者の勧めもあって連載開始をきっかけに上京。卒業目前というタイミングだったが、先生も友人も賛成し、快く送り出してくれた。都会人となっても富樫さんのふるさとへの思いは強く、「レベルE」では山形を舞台としたり、年2回の里帰りも欠かさないほどだ。「今思えば、大学時代を刺激も誘惑も少ない山形で過ごしたからこそ、自分のやりたいことを見つけることができたし、あの頃に蓄えた栄養みたいなものがあるから、今、都会で頑張っているのかもしれない。時間的余裕のある大学時代に本当にやりたいこと、好きなことを見つけて、必要とあれば都会に出る、それでも全然遅くない」と富樫さん。

近年は、体重増加で腰を痛めて連載の休載を余儀なくされていたが、ウォーキングやジョギングで減量にも成功し順調に回復しつつある。今では、腰痛を克服するために始めたランニングが趣味になっている。50歳を間近に控えた現在

富樫さんにとっての
山形大学とは？



の目標は、50代でフルマラソンに挑戦すること。逆境を逆手に取って楽しみに変えている。「好きなものをいくつも持っている、何かひとつ諦めることになっても前向きに方向転換ができる。だから、好きなものを自分で見つける習慣をつけておくといい」大学時代にやるべき事として富樫さんが寄せてくれたメッセージは、第2の“好き”をかなえた先輩の言葉だけに説得力に満ちている。